

久米島のオモロ／キューナの音譜化とデジタル復元

Making to standard western music sheet and digital  
restoration of *omoro/queena* of Kumejima

又吉 光邦／具志堅園子  
Mitukuni Matayoshi／Sonoko Gushiken

## 久米島のオモロ／キューナの音譜化とデジタル復元

Making to standard western music sheet and digital restoration of *omoro/queena* of Kumejima

産業情報学科

又 吉 光 邦

株式会社エヌ・メルクス

具志堅 園 子

### 【要旨】

本報告書では、沖縄県の久米島に残るオモロとキューナといわれる古謡を音譜化し、かつデジタルで再現可能にしたことを報告する。オモロとキューナは、現在の君南風（ちんべー）よりお借りし、キューナは久米島の元具志川村教育委員会教育長の中村昌昭さんからお借りしたものである。また、民俗学者の上江洲均先生からも非常に貴重な久米島の古謡の採録されたテープをお借りし、それらの音譜化とデジタル化を進めた。本報告書にあるオモロとキューナは、かつて音譜化されたことのないものである。また、そのいくつかは、まだどこでも公表されていない沖縄の古謡である。

Some old Okinawan folk songs, specifically *omoro* and *quweena*, have been preserved on cassette tapes in private holdings in Kumejima, one of the islands of Okinawa Prefecture. This paper presents the procedures used for restoring the tape-recorded music digitally, and converting that to written form on standard Western sheet music, thus enhancing the preservation and accessibility of this important collection. We obtained the *omoro* cassettes from the *norō* Chinbei, an Okinawan priestess, and the folklorist Prof. Hitoshi UEZU, who had personally selected and recorded the songs. The one *quweena* cassette was obtained from Masa'aki NAKAMURA, previously superintendent of the Gushikawa-son Board of Education. The songs presented here as sheet music have not previously been available in this form, and some are appearing here to the public for the first time.

### 【目次】

はじめに	5 音符の拾い上げ
1 久米島の古謡	6 資料のある古謡
2 デジタル化する古謡	7 古謡の音譜作成
3 謡詞の特定にあたって	8 まとめ
4 音譜作成の流れ	

## はじめに

沖縄県には多くの古謡が残されているものの、琉球王朝時代から謡われ続けてきたそれらは、その継承者がほとんどいない状態となっている。現在は、謡い継いできた個々の家々や民俗学者が採録した録音テープにのみ古謡が残されている場合が多い。

本報告書は、これら録音されたテープから音と謡詞を取り出すことによって、五線譜に起こし、また MIDI ファイルや MP3 ファイルのデジタルデータとして後世に残すことを目的としている。

### 1. 久米島の古謡（文献 [1] [2]）

沖縄は、琉球王朝期に古謡を集めた謡集『おもろさうし』が編纂された。『おもろさうし』の中で久米島に関するものは、十一巻と二十一巻に計210首に収められているが、両巻は重複もあり、実数は140首程度である。14-15世紀頃になると、久米島で盛んに「おもろ」などの謡を作っていたと考えられている。

今回、研究対象として使用した古謡の中には、久米島最高位の祝女（ノロ）である君南原（チンペー）が儀式の際に謡っていた「おもろ」で既存の資料に残っていないものもあった。

研究対象の資料のテープ音源も古いもので、テープが伸びており、聞き取りにくいところも多々あった。また文献から謡詞を特定しようとしたが、久米島の古謡について書かれていた資料自体が少なく、今回のテープ以外に資料のない古謡も複数あったが、それはテープの作成者の記憶を頼りに謡った古謡もあり、活字として残っている古謡とそれとの歌詞の違いなどがあつが、それは、地域により歌詞が異なることは、よく知られているので、その違いの表れと考えることもできる。

## 2. デジタル化する古謡

今回、デジタル化する久米島の古謡は、全部で8首である。ただし、これら8首の中に『おもろさうし』の中にあるものがあるのかどうかは、現在のところ調査していないので、不明である。

デジタル化した古謡のリストを下に示す。古謡の名前で分からないものは、テープをお借りした方、あるいは歌詞の中から適当に語句を選び謡名とした。ただし便宜上、トラック〇〇とも記す。ここで、トラック1、トラック5、トラック8はそれぞれ別の曲に分割したので、ここに現れていない。（例：トラック1＝トラック2＋トラック3）

- ▶ トラック2 （君南原：前半）
- ▶ トラック3 （君南原：後半）
- ▶ トラック4 （やまとうから）
- ▶ トラック6 （なんじゃびら一ゆ）
- ▶ トラック7 （みるくゆがふ）
- ▶ トラック9 六月御祭ウムイ
- ▶ トラック10 鍛冶を謡ったキューナ
- ▶ トラック11 道行きウムイ

我々は、アナログ形式のテープに採録された古謡（音源）をデジタルに変換し、その後、Music Score Ver2.1<sup>1</sup>を用いて音譜（本報告書の【附録】）にし、MIDI ファイルにした。

### 3. 謡詞の特定にあたって

久米島の歴史民俗に関する文献を利用していくつかの謡詞の特定を行ったが、テープに採録されている古謡の中には文献に載っていないものがあつた。そのため、それらの文献資料に載っていない古謡は、音源から直接聞き取り音譜に載せることとし

<sup>1</sup> Music Score Ver2.1 は、シルバースタージャパン社の設計したソフトウェア。音譜の編集、観賞、演奏、印刷などを行うことができる音譜編集ソフト。

た。ただし、著者らが方音に慣れていないこと、ならびに音源のノイズがひどいため聞き取れない箇所も多々あった。今後、民俗学を専門に研究されている諸先輩のご教授を賜りたい。

#### 4. 音譜作成の流れ（文献〔3〕）



図1 音譜作成の流れ

#### 5. 音符の拾い上げ

テープに採録された古謡をただ単にデジタルメディアに録音し直しただけでは、ノイズがひどく、音符の拾い上げ作業が困難なことが分かった。そこで、まず共著者の又吉がノイズを取り除く作業を行った。その後、共著者の具志堅が図1に記す作業を根気よく続けることで音譜を作成した。

アカペラの古謡から音符を拾い上げる際、聞き取りにくい音は、ピアノ等を併用しながら作業を進めた。しかしながら、ただ拾い上げるだけだと、＃や♭が多くなり、音譜が読みづらくなることが分かってきたため、＃や♭を音譜の初めで設定する調合設定を行うことで、音譜を見やすく、かつ読みやすくした。

次に、音源と音譜上のテンポを揃える作業を行った。西洋の音譜（五線譜）は、基

本的にテンポが一定だが、アカペラで謡われた古謡はテンポが一定でないので、テンポの微調整を行った。実際には、音源と音譜上の音を同時に流し、ズレのある箇所を探し出してテンポ調整を行った。

次の表1は、録音された古謡の実時間と、テンポ調整前の音譜での時間、そしてテンポ調整後の時間である。

表1 テンポ調節 単位（分：秒）

	実際の音源	調節前	調節後
君南原：前半	10：43	10：20	10：40
君南原：後半	12：28	15：00	12：18
トラック4	12：17	10：47	12：14
トラック6	3：12	2：50	3：05
みるくゆがふ	2：18	2：32	2：15
六月御祭ウムイ	12：02	13：04	12：22 36秒は音源にない
鍛冶を謡った	1：86	1：37	1：47
道行きウムイ	3：46	3：08	3：18

表1より、完璧にテンポの調節を行うことはできなかったものの、調整前よりも調整後において実際の音源に近づいたといえる。

ここで、文献〔1〕によれば「六月御祭ウムイ」は録音されている以上の小節がある。そこで、曲の流れを合わせて共著者の具志堅が改めて作成した（36秒間）。

また「道行きウムイ」は、録音テープには30秒間の空白の間があるが、音譜上には表現していない。

テンポを調整した後、古謡の謡詞を音譜に載せる作業を行った。資料にある場合は、資料から謡詞を載せ、資料にない場合は、音源から聞き取って記した。その際、聞き取りで得た謡詞は（ ）内に記して、区別できるようにした。

最後に Music Score を利用し、MIDI 形式の音譜を作成した。



## 6. 資料のある古謡（文献〔1〕）

次に本報告書で扱う古謡8曲の中で、資料のある3曲について概要を述べる。

「六月御祭<sup>2</sup>ウムイ」と「道行きウムイ」は、久米島で行われている行事の最中に謡われる古謡。儀間ノロによる儀間・嘉手刈の稲大祭において謡われていた。

六月二十四日のトゥヌヌブイ（殿登り）の日に、ノロをはじめ神女たちがノロ殿内へ集まり、各自の頭に戴くカブイをつくる。カブイを作り終えると「ノロの火の神」に向って黒線香を立て拝む。一通りの拝みの儀式を終えたあと、火のついた黒線香を抜いて門の脇へ置いてから新しい線香を立てる。その後、外に向って座り、「六月御祭ウムイ」を謡う。

翌二十五日の朝神の行事には、ノロ殿内にノロをはじめ神女やウチワーギ（団扇上げ）の子供たちが集まり、火の神石に向けて線香を上げ、前日同様の拝みの儀式をしたあと、仏壇にブーシー（味付ごはん）を供える。しばらくしてからそれらを下げて皆で食べる。その後決まった道を通して嘉手刈ひや家（大殿内）へ行き、神女に出される大盛飯をおいた四つ組膳を食べたあと、全員で伊敷索城跡へ出発する。衣装を変えた神女たちは城へ向って拝み、謡を謡い、その途中で拝みに来た人々は、次々と神女に盃を捧げる。

儀式を終えたあと、城を下り、神道を通して再び大殿内に至る際に謡われるのが「道行きウムイ」である。又、大殿内の火の神前へ至った後、座敷の清めをして後に神女たちがウムイを謡う。それが済んだ後、「白道家」へ行く際に白道前の神道を通るとき、および「玉城」への行程で道行きウムイが謡われる。

<sup>2</sup> 沖縄島では、旧暦の六月十五日に六月ウマチー（稲大祭）が執り行われるが、久米島では二十五日。

次に「鍛冶を謡ったクェーナ」についだ  
が、これは具志川に伝わる古謡で、経年のため欠落や後世の変更の後がある。ただし、歌詞の大意は分かる。また、一句ずつの切れ目に「クェンナー、コイナー、コンナー」と聞こえる囃子が入るが、それは早くなると「コイ」と聞こえる。

## 7. 古謡の音譜作成（文献〔3〕）

第2節で述べた古謡の音譜を作る際に気づいた点、苦労した点を次に示す。

それぞれの古謡によって音譜化する際の難しさが異なっていたものの、共通して言えることは、音譜の見易さを考えて、表現の仕方を工夫したことである。具体的には、最初の音譜の拾い上げでは、bや#が音譜上に多数出てきて、音譜が読み難くなった。そこで、音譜化後、再度、音譜を見直して調号設定を行った。この作業によって、古謡の音譜を見やすく、かつ読みやすくした。

また、古謡は全てアカペラのため、次の謡に移るタイミングや、休符の取り方など、リズムが一定でない。そこで、所々拍子の変更を行い、さらに、実際の音源に近づけるため、リズムを小節ごとに変更するなどの細かな設定を行った。

次にそれぞれの古謡について述べる。

### ▶ トラック2（君南原：前半）

テンポの速さが前半と後半で大きく変わる。音譜では現せない音（ミとミ#の間の音）がある。

### ▶ 「トラック3（君南原：後半）」

ノイズがひどく、なんとか音の聞き取りは出来たものの、ノイズの影響で音源からは母音のみが聞こえる。歌詞を読み取るのが、とても困難であった。

### ▶ 「トラック4（やまとうから）」

録音テープに古謡が途中からしか入って

おらず、フレーズの区切りに苦勞した。

▶ 「トラック6 (なんじゃびらーゆ)」

リズムが全体的に安定しており、音符の拾い揚げが容易であった。同じフレーズを繰り返す部分もあったのでリピート記号を用いて音譜を作成した。

▶ 「トラック7 (みるくゆがふ)」

繰り返しの部分が多かった。節回しの部分の表現が、難しかった。

▶ 「トラック9 六月御祭ウムイ」

古謡が途中からの録音となっていたが、文献より、初めの歌詞を見つけたので、リズムや古謡の流れを参考に著者（具志堅）が、文献の歌詞に合わせながらフレーズを作り上げて完成させた（歌：中村昌昭）。

▶ 「トラック10 鍛冶を謡ったクェーナ」

古謡自体の歯切れが良かったので、それを音譜上でも表現するために、スタッカートと呼ばれる奏法記号を使用した（歌：中村昌昭）。

▶ 「トラック11 道行きウムイ」

儀式の最中の合間が非常に長かったため、フレーズごとに区切って作成した。

## 8. まとめ

本報告書では、久米島のオモロ・クェーナという古謡の音譜を作成し、再現可能なMIDI形式やMP3形式を作成した。

録音テープは、何度も使用されたためノイズが多く含まれていた。そこで、初めに録音テープからデジタル媒体に録音しなおし、パソコンでノイズ除去を行った。その後、音符を拾い上げて音譜を作成した。その際、ノイズ除去を又吉光邦が行い、音感や音楽の知識の必要な音譜化を具志堅園子が行った。

古謡を音譜（五線譜）に再現するには、音楽の感性、および知識が非常に重要であった。特に音譜化では表現しにくい音の場合、

何度もピアノの音と音源を聞き比べ、あるいはMIDIで再現された音譜をいろいろな楽器で演奏し、元の音源に近づけるなど、気の遠くなるような作業が必要であったが、最終的に録音テープで得ていた8曲すべてを音譜化・デジタル化することに成功した。

個人的な感想であるが、久米島の古謡の音譜作成によって琉球音楽の奥深さに触れた気がする。三線の入らない、アカペラで謡われる神前の「ウタ」は、何か威厳を感じさせるものが多かった。

## 9. 謝辞

本報告書作成にあたり、貴重な古謡の録音テープをお貸しいただいた、現在の君南風、久米島町の元具志川村教育委員会教育長の中村昌昭、そして録音テープのみならず、古謡にまつわるいろいろなお話を頂いた民俗学者の元久米島自然文化センター館長の上江洲均（名桜大学名誉教授）に感謝の意を表します。また、沖縄国際大学のKaren Lupardus教授には、私の拙い英語要旨の添削をいただいた。この場を借りて感謝の意を表したい。

投稿採録日：2009/05/15

## 参考文献

- [1] 「久米島の年中行事」, 上江洲均, 『沖縄久米島「－沖縄久米島の言語・文化・社会の総合的研究－」報告書』(沖縄久米島調査委員会), 弘文堂, pp.309-344, 1982.10.
- [2] 『久米島 具志川村史』, 具志川村史編集委員会, 具志川村役場, pp.27-117, 1976.4.
- [3] 『久米島の「おもろ・くえーな」の復元～古謡のデジタル化～』, 具志堅園子・崎原佳央理, 又吉ゼミナール卒業論文集 Ver.2, pp.81-105, 2009.3.

First system of musical notation for 'Kimi no Na wa'. It consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 4/4 time signature. The lower staff is in bass clef. The music features a mix of eighth and sixteenth notes, with some measures containing rests. There are several accidentals (sharps and naturals) and dynamic markings (accents) throughout the system.

Second system of musical notation for 'Kimi no Na wa'. It continues the melody from the first system. The notation includes various note values, rests, and accidentals. The lower staff continues with a bass line that complements the upper staff's melody.

君南原:前半

[illegible]

[illegible][illegible]

君南原: 後半

い へ - い - い - へ - い  
 や ち - が や  
 ん か - み  
 が - こ お り よ ひにな - お  
 い へ - い - い - へ - い  
 が み の こお  
 ん く - き  
 い - か な う き よ ひにな お

う へ い へ い わ よ - ば う ば う - ま で - の - う  
 - あ ん う ば お - う - い じや こら あ  
 よ め あお に い - め う - よ お え う  
 - い う うはうあよ う あお あき  
 う へ い へ い わ よ ば う ば う あひあう ば う - ゆ  
 ひ - う ば え い - じや - ば こ う - に (い) か  
 うは(は)わ - あ - え え - お え う お う お  
 う ひ - あおあう - ひ あお あ い  
 う へ い へ い わ よ ば う あ う - い あお あ じや - い  
 あうあ い - ひ あおあ い ば う - で い - い で い う で い -

うでいいい ー いーちゅ ー よー ういゆ ー ー

ー う はあ う はあ あい

う へ い へい わよ ひい にい ー るにし ー ちよーで

ひいー う ひー ー ひいー わー ちよやおー ー か

うわよい いー ー る うー よ えー おー う

い い あおあ い あお あい

う へ い へい わよ ひい ひいー めいー ていーん

あーん ん あーん くくる めいーい ていめにい

ー だー ちゆらさん あけて えー ん めていえ ー ま

ん え あおあ い え あお あひ

う へ い へい わよ ひい にい ー ていひー いー め

あおあ ん あおあ ん はーうー めじゃー あかか に

い うにひに うにちゆ うー ー とろ へい め ー おとろ

うろ う はおあ い う はお あひ

う へ い へい わよ ひい ひー ー めひー にひーん(め)

う は ん ちゆーめ ー じろーう てあて んー

えま おり いー め めー お うゆ ていーうー めてい

め ん あおあ い ん あお あひ

う へ い へい わよ ひい ちよいー めていー ちやーんう

め(め)ー ん く ー ん ちやか ー まのー こくさーてい

う へ い へい わ よ ひい ひー めう ひー ちゃーめ  
 わおあう(め) ひ あおあん ちゅーめ わーか にちゆにり  
 や かのあー のなみ ー め あひめ ーん  
 め ん あおあい ん あお あひ  
 う へ い へい わ よ ひい ひいー とさひー でえちやーん  
 わおわ ん ひ わおわ ん ひーん めえめ えおえて  
 ー くさーとさてい ーくさー ー くさていめ ー くさ  
 う ん あおあい ん あお あい  
 う へ い へい わ よ ひい めー ーん めー と  
 やー ん ん やーん はいい いくーうま こわい

ー くにいが あーり いーりー はいり めとさ  
 う ん あおあい ん あお あひ  
 う へ い へい わ よ はあ くー りはー ーな ーり  
 はーん はーり んーとさ いりー ていーん  
 めていい ん めいる うーり めい りーん とさ  
 い ひ あおあい ひ あお あひ  
 う へ い へい わ よ はあ はー はなていー めーん  
 うーや めー んうーやめ うーてい よかや にちゆりー  
 ちよ えかおに らなてい えーよ えいー めん  
 め ん あおあい ん あお あひ



- はわなん にーゆ うーお いーめ -く  
 - ん ああ い ん あお あい  
 う へ い へいわ よ うう は んあ んあ ある  
 あうあ ん あえい いいんい かこらな や(は)  
 いわもり のりい いーお おり めーう  
 くら ん あおあ い ん あお あい  
 う へ い へいわ よ うう あかーあかーちよ り  
 おーえ あえい -ばうい ちゃこらーよ  
 わなりい -めい いーよ あい えーよ  
 う う あおあ い い あお あい

# やまとから

ま(は) - よど(は)の ち め(は) - う(す) - ち ざ(た) り -  
 んえーく - とう ばあ ぢゆ ら - さ -  
 る(め) - ゆ いーえ - う まー め ど(ち)も(め) ち(し)  
 の(は) - は(あ) - ん ちゃ りーめ - えーく - とう ば  
 ぢゆ ら - さ - る - とう いーえ -  
 う まー め ま にーじ -め(は) い ら - え -  
 えーく - ち か ら(た) さーあ - る(ゆ)ーゆ  
 いーえ - う み(い) - め(は)う(は) やーめ - ん ち

け - - てい - え - ぐ(む) - ら ぐ(め) く う - やら  
 V  
 - う - ん - ち け え - ち - や ま - とち か(は)  
 V  
 ら - う - ら た の(め) - え - え - は ざ(た)は(ま)  
 V  
 う ん(る) - の - め - め - し み(に) い - ね -  
 V  
 だ(は)か - め ら ち - う - しや き り - ゆよ -  
 V  
 え - は - ざ(た)ぐ(め) ら - てい - う - しや - き  
 V  
 り(い) - ゆ(よ) - やし - ゆ(よ) た - ら - う - ら た  
 V  
 るよ - え - え - く - とち は(あ) ん - - よ

- よ ろ(の) - し に い - え - な か - む ら  
 V  
 ち - う - しや き り - ゆ - え - は - た め  
 V  
 ら - ち う(く) しや - き(に) り - ゆ -  
 V  
 ん(い)か - し あ ま - み - ちゆ い - ら - え -  
 V  
 え - ず - い め ま - ち - め - ぶ - てい  
 V  
 ゆ う - え - い に - は(あ) れ(げ) ん - く - む(め) り  
 V  
 ゆ - え - え - え - な - さ る(め) ま - - ち  
 V  
 う り - てい め(よ) う - え - - な - は れ(で)

[illegible][illegible]

V

やーねー えーくー らん お(る)

さーちゅーに よおー えーあがー り(る) お(る)

V

ちゅーるめ(る)ー ら に(る) やーねー えーくわー さな(る)

V

さ や(る)ー ゆーい

V

のーえーくむーかまーやーや

ーにちーのーらーゆーくーにの

V

う ん むーやーゆーくーくわーめー

しーうーちーあーまーていーりー

なんじゃびらーゆ

ゆーむの むー い コイナ ゆーむの むー い  
 コイナ ゆーがー みー の(ゆ) コイナ いわ(ほ)なー  
 にーよ(は)コイナ む(さ)ね ゆー てい コイナ  
 む(さ)とらま(ゆ)ー ゆー てい コイナ か んた(ゆ)ー てい  
 コイナ ま(ゆ)んじゃびらー ゆ コイナ いわ(じゃ)やび  
 らー ゆ コイナ いだかー にー ゆ コイナ  
 うふていーんじゃー め コイナ ゆまていー んじゃー め  
 コイナ うぐまていだー ゆ コイナ うむなー  
 かー め コイナ なんじゃびらー ゆ コイナ  
 いわやびらー ゆ コイナ う(ん)めかなー ていコ

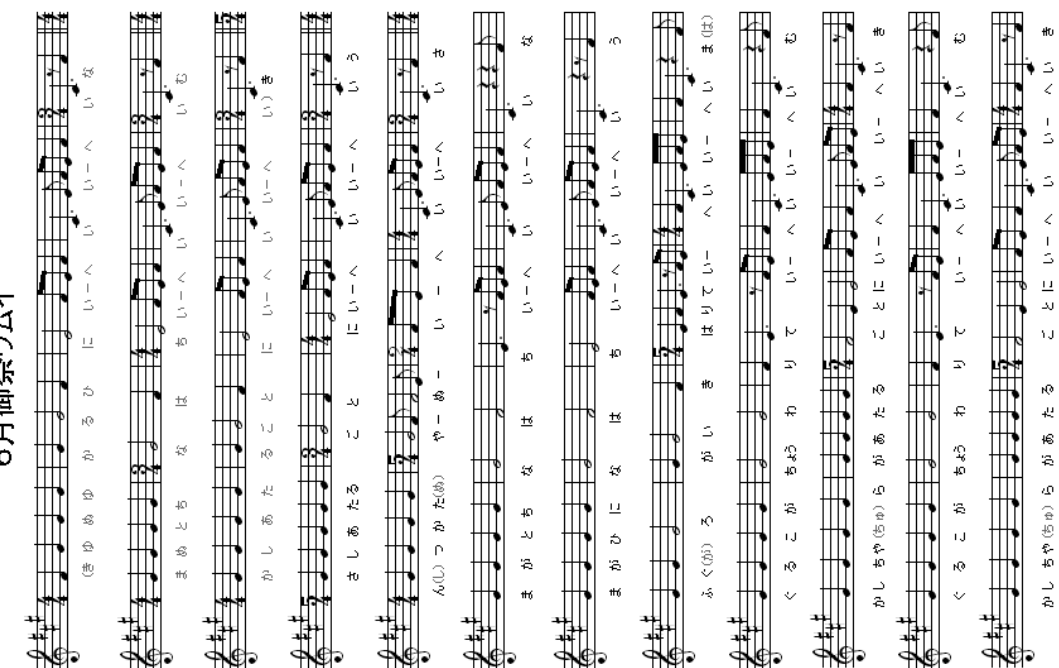
イナ う(ん)はくんぐわー てい コイナ いわ(は)さー み(に)ーゆ  
 コイナ かなさー みー ゆ コイナ ゆ(む)ふこー てい  
 コイナ まつ(さ)こー てい コイナ めきにー てい  
 コイナ まきにー てい コイナ わから(わ)ー  
 かー め コイナ もーこー め コイナ  
 は(ま)く ていまくー ら(は) コイナ かみにーくー ゆ コイナ  
 かみにんま(ゆ)ー てい コイナ むとらかー らー てい  
 コイナ む(ん)とらりーちー てい コイナ む(さ)く(ぶ)らか(さ)  
 そー てい コイナ い(ん)かみ(てい)ん かおー てい コイナ  
 なんじゃびらー ゆ コイナ いかわびなー ゆ コイナ

みるくゆがふ

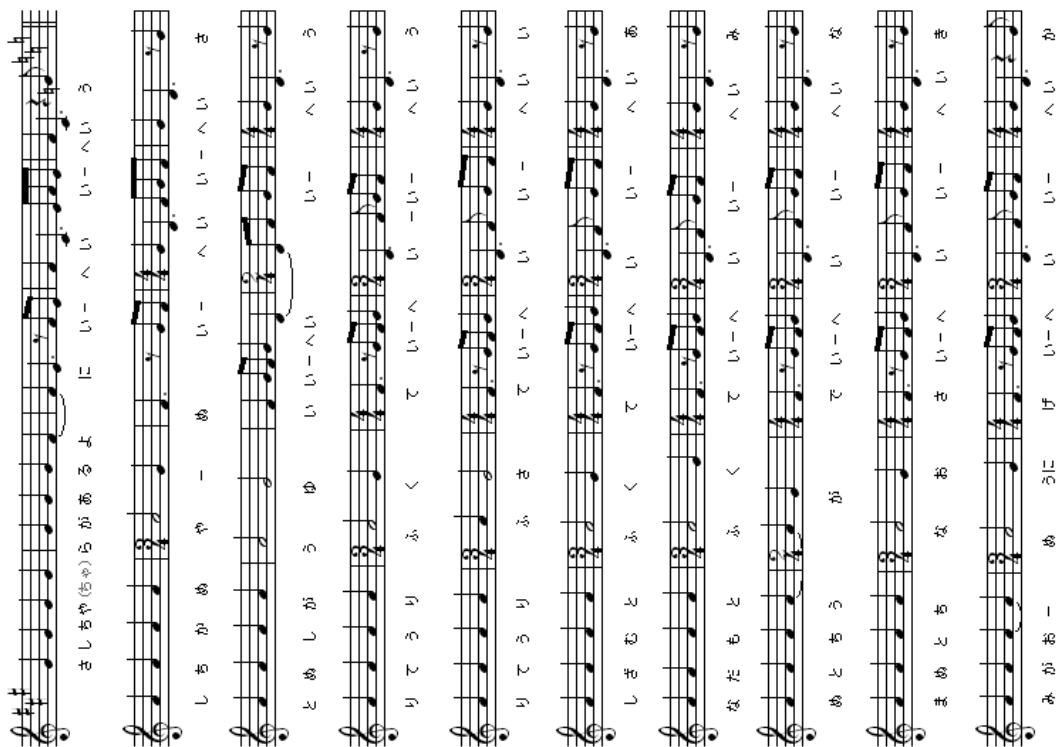
うふめか きま - か - によ  
 ないた い - い - ふ - ぞろ にかかみめ  
 ゆがふ さく - さ - ま - をみよ  
 ふ ぞろ きめ し - ま - よ ゆ - が  
 ふ さ く さ - ま - をみよ  
 ふ ぞろ きめ し - ま - よ ゆ - が  
 お や - お - をうによ はていり - け  
 - る - や - きん かなみめ ゆく み  
 お てい - り - い - ま - さ び

らめ やよ - ゆ - く み お  
 てい - り - ま - り - い - ぞろ  
 らめ やよ - あがりた てい  
 - らめ やよ がふ - い - に  
 - らめ りい - いたに  
 こ - ら - ゃ - ゃ - ゃ - ゃ  
 がふ - い - り - いたに - の -  
 うや よ み る く がふ - よ

# 6月御祭ウムイ



(きゆめゆ) かる ひ に いーへ い いーへ い な  
 まめとち な は ち いーへ い いーへ い む  
 かし あたる こと に いーへ い いーへ い き  
 さし あたる こと に いーへ い いーへ い う  
 さん(つ) か た(め) やーめー いーへ い いーへ い さ  
 ま が とち な は ち いーへ い いーへ い な  
 ま が ひ に な は ち いーへ い いーへ い う  
 ふく(め) ろ が い き はりて いーへ い いーへ い ま(は)  
 くる こ が ちよ わ り て いーへ い いーへ い む  
 かし ちや(ちや)ら が あたる こと に いーへ い いーへ い き  
 くる こ が ちよ わ り て いーへ い いーへ い む  
 かし ちや(ちや)ら が あたる こと に いーへ い いーへ い き



さし ちや(ちや)ら が ある よ に いーへ い いーへ い う  
 し ち か め やーめ いーへ い いーへ い さ  
 と め し が う ゆ い いーへ い いーへ い う  
 り て う り ふ く て いーへ い いーへ い う  
 り て う り ふ さ て いーへ い いーへ い い  
 し ま む と ふ く て いーへ い いーへ い あ  
 な だ も と ふ く て いーへ い いーへ い み  
 め と ち う が て いーへ い いーへ い な  
 ま め と ち な お さ いーへ い いーへ い き  
 み が おーめ うに げ いーへ い いーへ い か

みがよー めうに げ いーへ い いーへい み  
 やぶ やい た ぼ り いーへ い いーへい や  
 しな やい み そ り いーへ い いーへい う  
 ふま ち り うに げ いーへ い いーへい か  
 なま ち め うゆ い いーへ い いーへい や  
 にか ゆ め うに げ いーへ い いーへい あ  
 きま ゆ め うに げ いーへ い いーへい い  
 しち ゆらが う に げ いーへ い いーへい ぶ  
 しゃつ らが う に げ いーへ い いーへい う  
 にか じに た ぼ り いーへ い いーへい ま

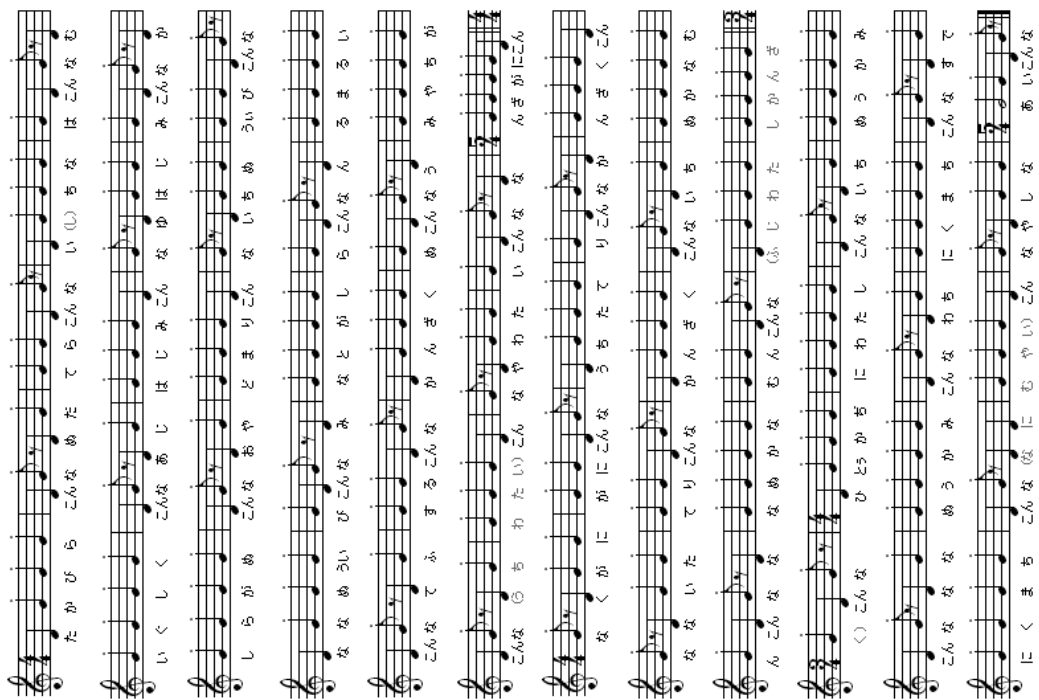
しか じに た ぼ り いーへ い いーへい あ  
 ま み じ た ぼ り いーへ い いーへい む  
 い み じ た ぼ り いーへ い いーへい や  
 にか ゆ め うに げ いーへ い いーへい あ  
 きま ゆ め うに げ いーへ い いーへい ぶ  
 しゃつ らが うに げ いーへ い いーへい か  
 きま さ てい た ぼ り いーへ い いーへい む  
 い ま さ てい た ぼ り いーへ い いーへい み  
 や(ほ)ぶ やい た ぼ り いーへ い いーへい や  
 しな やい た ぼ り いーへ い いーへい し



しゃがみが う に げ いーへ いーへ いーひ  
 とかじが う に げ いーへ いーへ いーし  
 んぐくの う た か いーへ いーへ いーま  
 んぐくの う た か いーへ いーへ いーた  
 りみそじ う た か いーへ いーへ いーな  
 かむらち (た ほ り) いーへ いーへ いーは  
 たゆらち くほー ち いーへ いーへ いーや  
 になゆ めう に げ いーへ いーへ いーち  
 ちめことん ゆかて いーへ いーへ いーい  
 しみが う に げ いーへ いーへ いーか

なみりが う ゆ え いーへ いーへ いーま  
 たゆめ う ゆ え いーへ いーへ いーま  
 たゆめ う に げ いーへ いーへ いーよ  
 くよいめ うに げ いーへ いーへ いーか  
 きまさる う に げ いーへ いーへ いーむ  
 いまさる う に げ いーへ いーへ いーか  
 みがゆ めう に げ いーへ いーへ いーあ  
 きまゆ めう に げ いーへ いーへ いーい  
 ちめかみ が な し いーへ いーへ いーな  
 なめかみ が な し いーへ いーへ いーみ  
 まぶや い た ほ り いーへ いーへ いーや  
 しなや い た ほ り いーへ いーへ いーい

鍛冶を歌ったクエーサ



たかびら こんなめ だてら こんない(し) ちな は こんなむ  
 いくしく こんな あじ はじみ こん なゆ はじ み こんな が  
 しらが ぬ こんな おや どまり こん な いちぬ ういび こんな  
 ななぬ ういび こんな み なと がし ら こんな ん る まる い  
 こんな て ふ する こんな か んぎく ぬ こんな う み や ち が  
 こんな ち れ たい こん な や わ た い こん な な んぎが に こん  
 な く が に が に こん な う ち た て り こん な か んぎく こん  
 な な い た て り こんな か んぎく こんない ち ぬ か な む  
 ん こん な な なぬ か な む ん こんな (ふ) じ わ た し か んさ  
 (く) こんな ひ と が ち に わ た し こんない ち ぬ う か み  
 こんな な なぬ う か み こんな わ ち に く ま ち こんな す で  
 に く ま ち こんな (な) に む や い) こん な や し な あ い こんな

# 道行きウムイ

へ - う が ち  
 - か さ い し ち  
 い - な は(はあ) う た か  
 - び や - びよ へ や  
 む - - い や  
 じ - く た  
 か び よ - や ち  
 へいはい な - - い